

歴史の道

町なか高札石柱を訪ねて

勝山地区工コ推進協議会



発行にあたり

平成十八年、『昭和の勝山街道』が発刊されました。この後、高札が町なかに三十本建てられ、文面は文化財保護委員 丸屋仁志氏が書かれたもので、年二回程点検補修されています。

現在の高札は昔とは木材も違い、今後の風化や劣化を考慮し、先輩たちが作られた高札・石柱を後世に伝えたく、今回町なか高札・石柱誌を発行させて頂く運びとなりました。

この冊子を片手に町なかを探索して頂き、昔に想いを馳せてみてはいかがでしょうか。

目次

高札

七里壁

岸の下通り

石坂 札の辻

追手坂（大手坂）

雲平通り（智道横町）

神明坂（お倉坂）

小姥母坂（こんぱ坂）

平泉寺道

立石通と十王堂

組町通り（家中）

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

元禄やなぎ通り
尊光寺前通り
寺町通り「後町通り」
茶屋通り
山家口坂（坂の下）
お堀端通り
鉄砲横町・堤町
庚申野道
浄願寺門前通り
白山道と中の橋道
義宣寺門前通り
松原新道
畔川道
23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11

蔵前小路
神明東参道
旧沢の古道
河原通り
郡町通り
本町通り
神明通り
30 29 28 27 26 25 24

石柱

おたね坂と米屋横町
万都通り
神宮寺橋
東御門橋
34 33 32 31

参溪橋

大蓮寺橋

義宣寺橋

石橋

鵜の嶋の渡し跡

道標

高

札

35

36

37

38

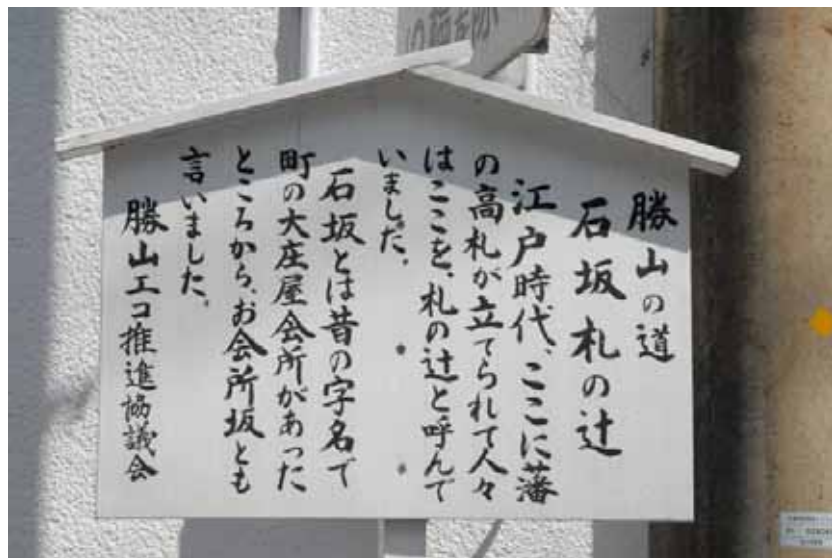
39

40



1、 名 称 ^{しちりかべ} 七里壁

設置場所 本町二丁目 中西石垣横



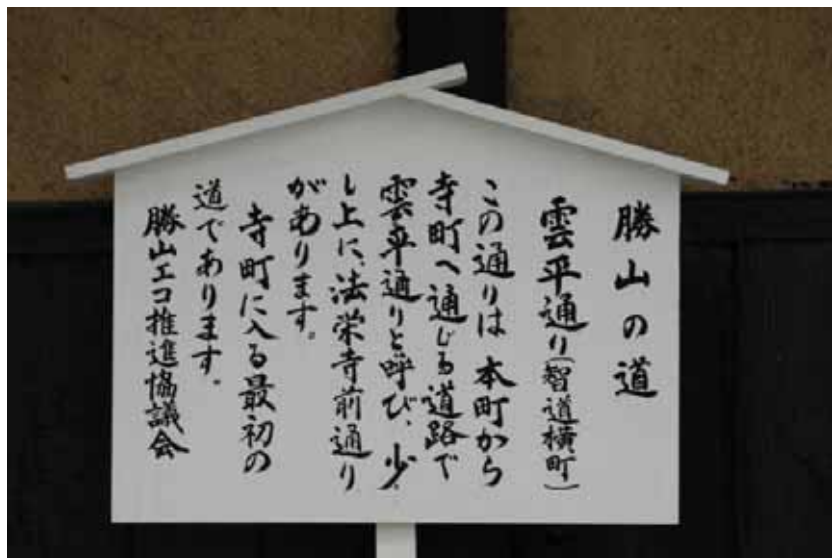
3、 名 称 ^{いしざか ふだ つじ} 石坂 札の辻

設置場所 本町二丁目 エビヤ書店横



2、 名 称 ^{きし したどお} 岸の下通り

設置場所 本町二丁目 下袋田会館前



5、 名 称 ^{うんぴんどお}雲平通り (^{ちどうよこちよう}智道横町)

設置場所 本町四丁目 田野屋酒造横



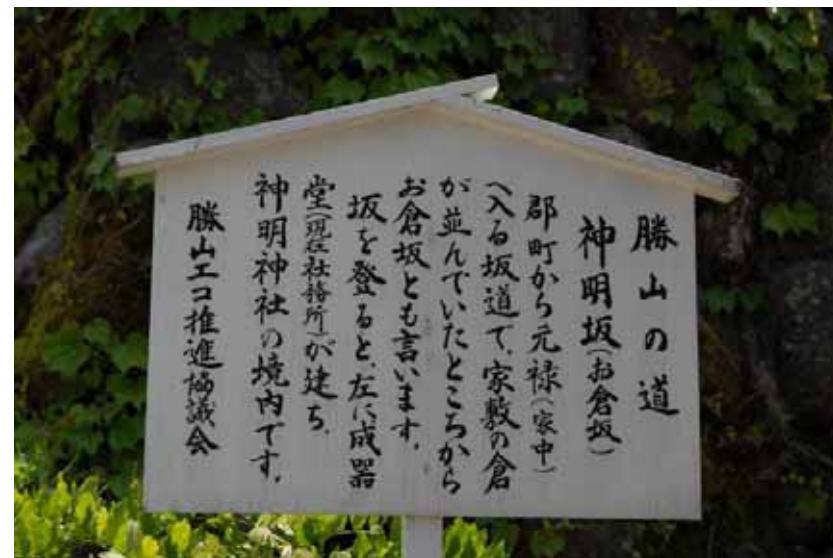
4、 名 称 ^{おおて}追手 (^{おおて}大手) ^{ざか}坂

設置場所 本町三丁目 上袋田会館横



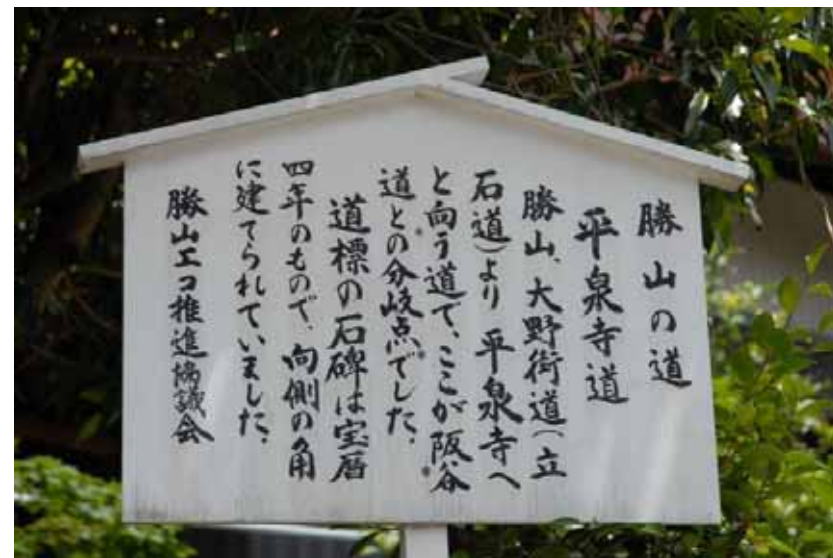
7、 名 称 ^{こうばざか} 小姥母坂 (こんば坂)^{ざか}

設置場所 元町二丁目 魚中五前



6、 名 称 ^{しんめいざか} 神明坂 (お倉坂)^{くらざか}

設置場所 本町四丁目 早川菓子店花壇



9、 名 称 ^{たていしどう} 立石道と ^{じゅうおうどう} 十王堂

設置場所 元町三丁目 福の湯前



8、 名 称 ^{へいせんじどう} 平泉寺道

設置場所 元町三丁目 石塚宅前庭



11、 名 称 ^{げんろく}元禄やなぎ^{どお}通り

設置場所 元町一丁目 松井宅前



10、 名 称 ^{くみまちどお}組町通り^{かちゅう}(家中)

設置場所 元町一丁目 元禄印刷前



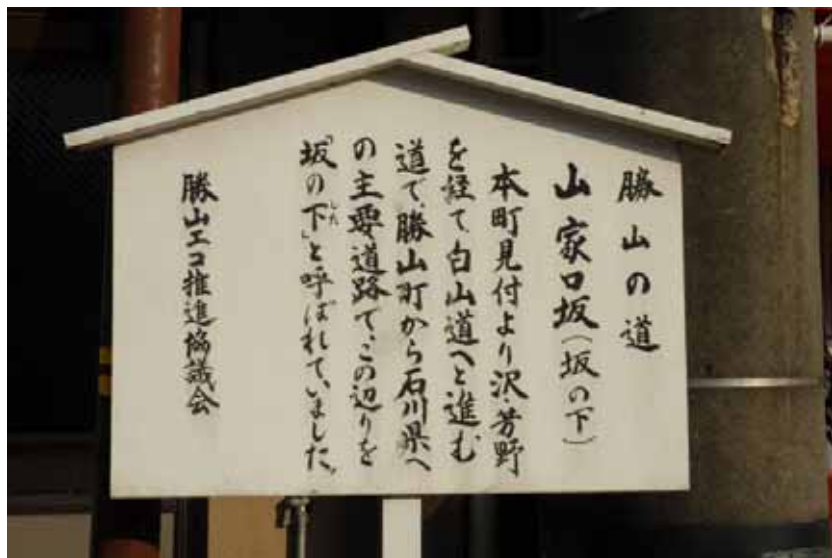
13、 名 称 ^{てらまちどお}寺町通り ^{うしろまちどお}「後町通り」

設置場所 本町二丁目 延勝寺前



12、 名 称 ^{そんこうじまえどお}尊光寺前通り

設置場所 本町二丁目 野辺薫宅前



15、 名 称 ^{やまがぐちざか} 山家口坂 ^{さか} (坂の下) ^{した}

設置場所 本町一丁目 三谷パン店前



14、 名 称 ^{ちややどお} 茶屋通り

設置場所 栄町一丁目 新保屋(多田耕一郎宅)



17、 名 称 ^{てつぱうよこちょう つつみまち} 鉄砲横町・堤町

設置場所 元町一丁目 久保酒造裏

16、 名 称 ^{ほりばたどお} お堀端通り

設置場所 元町一丁目 石畝歯科交差点前



19、 名 称 ^{じょうがんじもんぜんどお} 浄願寺門前通り

設置場所 芳野町一丁目 浄願寺前



18、 名 称 ^{こうじんのどう} 庚申野道

設置場所 沢町二丁目 沢区民会館前



21、 名 称 ^{ぎせん じもんぜんどお} 義宣寺門前通り

設置場所 栄町一丁目 齊藤商店裏

20、 名 称 ^{はくさんどう なか はしどう} 白山道と中の橋道

設置場所 芳野町一丁目 前田米店角



23、 名 称 ^{あぜがわどう} 畔川道

設置場所 立川町一丁目 伯立院前



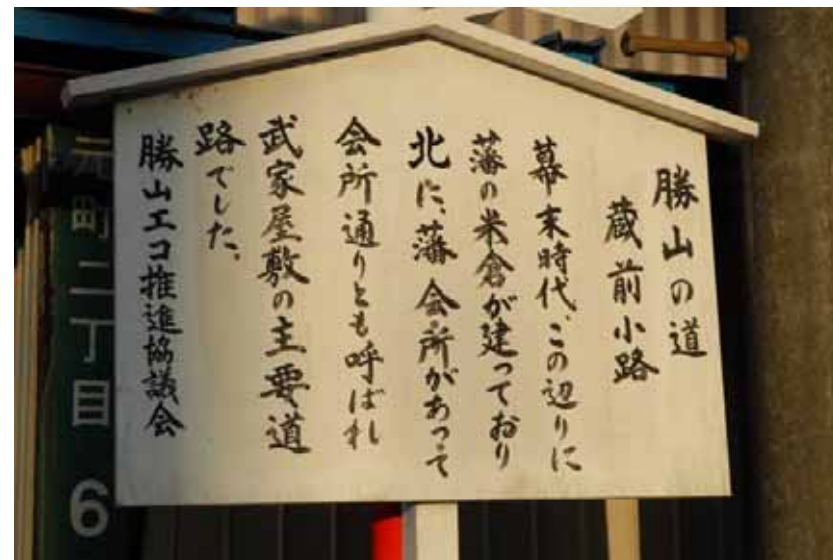
22、 名 称 ^{まつばらしんどう} 松原新道

設置場所 栄町四丁目 長湊橋



25、 名 称 ^{しんめいひがしきんどう} 神明東参道

設置場所 元町一丁目 山岸真宅前



24、 名 称 ^{くらまえこうじ} 蔵前小路

設置場所 元町二丁目 三角屋クリーニング前



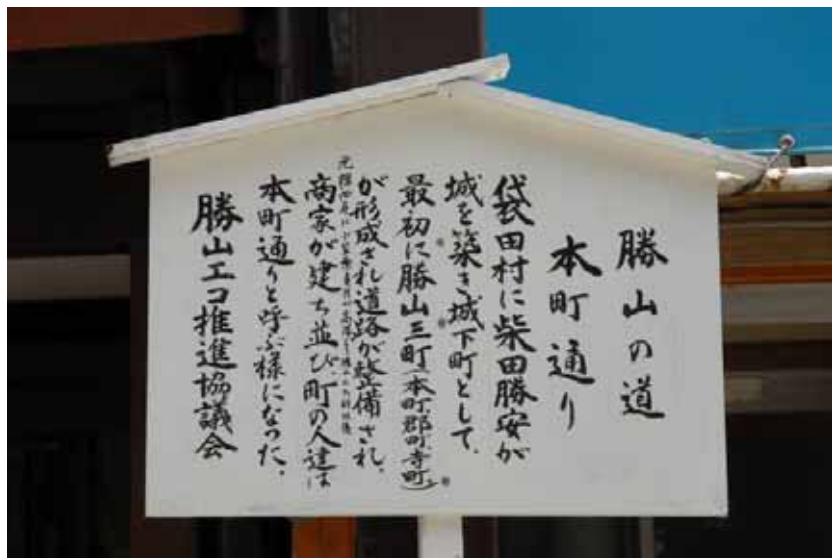
27、 名 称 ^{かわらどお}河原通り

設置場所 本町一丁目 久保米店前



26、 名 称 ^{きゅうさわ こどう}旧沢の古道

設置場所 沢町一丁目 一本義酒造横



29、 名 称 ^{ほんまちどお} 本町通り

設置場所 本町二丁目 丸屋菓子店前



28、 名 称 ^{こおりまちどお} 郡町通り

設置場所 本町四丁目 飴本理髪店前

石柱、道標



30、 名 称 ^{しんめいどお}神明通り

設置場所 元町二丁目 血澤祥志宅前



31、おたね坂と米屋横町 ざか こめやよこちょう
 (本町一丁目 玉木印刷前)
 昔、藩の若侍と町娘おたねの悲話が残る坂道で
 おたね坂と呼ばれています。この坂の下から本町
 までは、米屋横町と呼ばれ、勝山一の米問屋があ
 った所とされています。



33、じんぐうじばし 神宮寺橋
(昭和町一丁目 いしがみ横)
 このあたりに、明治
 の初めまで、小笠原氏の
 氏神八幡神社とその別当
 神宮寺が建っていたころ
 から、神宮寺橋と呼ばれ
 るようになった。



32、まちいちとお 万都通り (本町一丁目
 市民活動センタ駐車場角)
 おたね坂を下りて本町より寺町へ入る道路が
 万都通りで、通称魚横町として人々に親しまれて
 いました。
 魚横町と米屋横町の交わる十字路には、金燈籠
 が建っていました。



35、さんけいばし 参溪橋
 (沢町一丁目 久保酒造裏)
 この橋の側に小笠原氏
 の家臣、安田参溪の屋敷
 があったところから
 参溪橋と呼ばれるよう
 になった。



34、ひがしごもんばし 東御門橋
 (昭和町一丁目 越前信用金庫前)
 この場所に勝山城
 本丸の東御門があった
 ところから、東御門橋
 と呼ばれるように
 なった。



36、だいにんじばし
大蓮寺橋

(沢町一丁目 一本義横)

牛首街道の通行人のために古くから架けられていた橋で、側に大蓮寺があるので大蓮寺橋と呼ばれた。

37、ぎせんじばし
義宣寺橋

(栄町三丁目 義宣寺前)

元は富田橋と言ったが、義宣寺の門前にあるところから、義宣寺橋とも呼ばれた。

昭和十年に架け替えられた際、

正式名になった。





この名がついたようだ。
 鵜の嶋と呼ばれたことから



この辺りから対岸中島へ渡し舟が出ていた九頭竜川に大きな中州がありこの中州を

39、鵜^うの嶋^{しま}の渡し跡^{わたあと}

(立川一丁目 九頭竜川堤防)



38、石^{いし}橋^{ばし} (栄町二丁目)



40、どう道標ひょう

(元町三丁目 石塚宅前庭、
笠川クリーニング交差点前)

約二五〇年前、平泉寺と

大野市の阪谷との分岐を示す

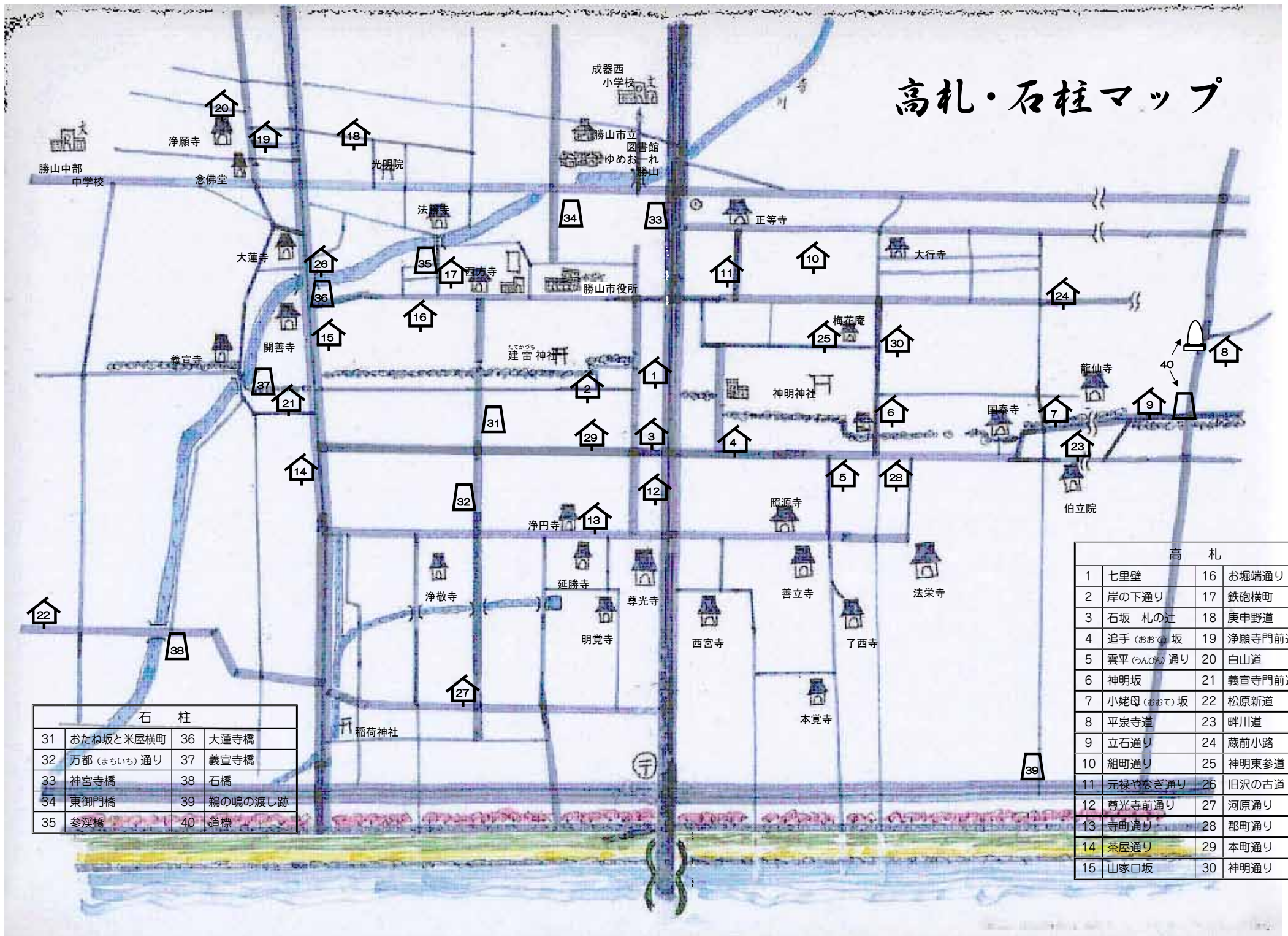
道標で、正面に「平せんじ道」、

右側面に「坂谷みち」、背面に

「宝暦四甲戌六月二十日」と

刻まれている。

高札・石柱マップ



石 柱			
31	おたね坂と米屋横町	36	大蓮寺橋
32	万都（まちいち）通り	37	義宣寺橋
33	神宮寺橋	38	石橋
34	東御門橋	39	鵜の嶋の渡し跡
35	参溪橋	40	道標

高札			
1	七里壁	16	お堀端通り
2	岸の下通り	17	鉄砲横町
3	石坂 札の辻	18	庚申野道
4	追手（おおて）坂	19	浄願寺門前通り
5	雲平（うんひら）通り	20	白山道
6	神明坂	21	義宣寺門前通り
7	小姥母（おおて）坂	22	松原新道
8	平泉寺道	23	畔川道
9	立石通り	24	蔵前小路
10	組町通り	25	神明東参道
11	元禄やなぎ通り	26	旧沢の古道
12	尊光寺前通り	27	河原通り
13	寺町通り	28	郡町通り
14	茶屋通り	29	本町通り
15	山家口坂	30	神明通り

歴史の道

町なか高札・石柱を訪ねて

発行 勝山地区エコ推進協議会

勝山市エコミュージアムわがまちげんき発展事業

高札文章 丸屋仁志氏（勝山市文化財保護委員）

高札文字 榊家嘉男氏

石柱 勝山地区エコ推進協議会

勝山市都市政策課

道 標 不明

表紙題字 杉下君枝氏

協力 勝山公民館

発行日 平成二十三年三月